

本計画とSDGsの関係 ～SDGsの視点を踏まえた本市学校教育～

(1)北九州市のSDGs達成に向けた取組み

「SDGs」(持続可能な開発目標)は、国連加盟国が合意した2030年の国際目標で、SDGsの多くは、「北九州市環境未来都市」をはじめとした、これまでの本市の取組みと大きく関連している。

こうした本市の取組みは、国内外で大きく評価され、平成30(2018)年4月、OECD(経済協力開発機構)は「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として、アジア地域で初めて、本市を選定した。また、平成30年(2018)年6月、本市は、国による「SDGs未来都市」に選定された。

(2)本市学校教育におけるSDGsへのアプローチ

○ SDGsの概念「誰一人取り残さない」

教育現場においては、「誰一人取り残さない」という視点を持ち、

- ・ 特別支援教育をはじめとした障害のある子どもへの支援
- ・ いじめ、長期欠席(不登校を含む)等へのきめ細かな対応
- ・ 経済的に困難な世帯の子どもたちへの学習支援、経済的支援
- ・ 外国人・LGBTなど、マイノリティへの適切な対応 など

課題や困難を抱える子どもを取り残すことなく、教育委員会・学校の責務として、学力や進路を保証していくことが重要である。

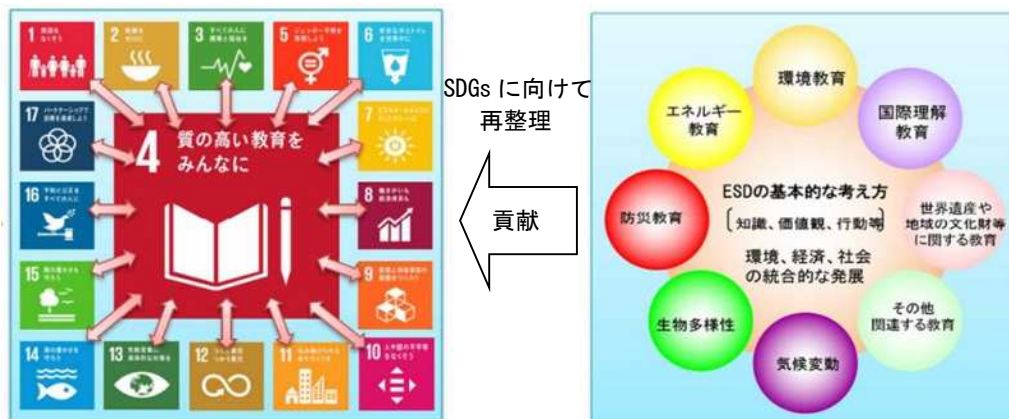
○ SDGsの達成に貢献するESDの推進

教育は、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」として位置付けられ、「教育が全てのSDGsの基礎である」ともいわれている。

また、本市が積極的に取り組んでいるESD(持続可能な開発のための教育)は、目標4の中でのターゲットに、「ESDを通して持続可能な開発を促進するために必要な知識等を習得できるようにする」旨が示されている。

本市教育活動全体を、SDGsに示される17の目標の視点から再整理し、ESDをはじめとしたあらゆる活動を通して、SDGsの視点を踏まえた教育を推進していく。

持続可能な開発目標(SDGs)と教育(ESD)



(3)SDGsの視点を踏まえた学校教育の推進

SDGsの視点を踏まえた教育を推進し、多様な問題が絡み合い解決が困難な現代の課題の重要性について子どもたちが認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を育む。

SDGsの視点が含まれる学習のアプローチとしては、各教科、特別の教科 道徳等のほか、環境教育・福祉教育・国際理解教育・キャリア教育・情報教育・人権教育等がある。

SDGsの視点を踏まえた本市学校教育のイメージ



目標4「質の高い教育を本市全ての子どものために」

SDGsへのアプローチ（例）

環境	環境アクティブ・ラーニング（小学校4、5年） ・総合的な学習の時間 ・体験を通して、本市の自然環境・環境保全についての理解を深め、実践力を高める。	     
ふるさと	新たな取組みとして地域教材資料集「(仮称) だいすき！北九州」（小学校3～6年）の作成・活用 ・本市のまちのよさについての理解を深め、誇りと愛情を育む。	  
人権	人権教育教材集「新版 いのち」「北九州子どもつながりプログラム」 ・道徳、特別活動 ・人権に関する理解を深め、自他共に大切にすることを育む。	  
福祉	高齢者体験・車いすバスケット交流（小学校高学年） ・道徳、総合的な学習の時間 ・体験や交流活動を通して、共に生きようとする態度を育む。	 
キャリア	職場体験、農民泊体験学習（中学校2年） ・総合的な学習の時間 ・職業に関わる体験活動を通して、生き方、働き方、進路についての理解を深める。	 
国際理解	文化交流 ・外国語科、外国語活動、総合的な学習の時間 ・交流活動を通して、異文化理解を深め、共に生きようとする態度を育む。	  
情報	ICT活用（小学校1年～中学校3年） ・各教科、総合的な学習の時間、特別活動 ・ICT機器の活用を通して、情報活用能力を育む。	

SDGsの視点に立った教育活動で育成する資質・能力

- 自分事として課題を捉える力
- 進んで参加する態度
- 他者と協力する力
- つながりを尊重する態度
- コミュニケーション力
- 多面的・多角的・総合的な思考
- 未来像を予想した立案力
- 批判的に考える力

(4)本計画とSDGsの関係

- 「誰一人取り残さない」という視点を持ち、課題や困難を抱える子どもを取り残すことなく、教育委員会・学校の責務として、学力や進路を保証していく。
- 教育が全ての施策の基礎であることから、本計画全体を貫く目標として「4 質の高い教育をみんなに」を位置づける。
- 市民総ぐるみで子どもの教育を支えるという観点から、本計画全体を支える目標として「17 パートナーシップで目標を達成しよう」を位置づける。

